

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

|     |                   |     |             |     |      |    |     |
|-----|-------------------|-----|-------------|-----|------|----|-----|
| 教科  | 商業                | 科目  | マーケティング     | 学年  | 2    | 類型 | 商業科 |
| 単位数 | 3                 | 教科書 | マーケティング 新訂版 | 出版社 | 実教出版 |    |     |
| 副教材 | マーケティング問題集 (実教出版) |     |             |     |      |    |     |

|       |   |
|-------|---|
| 学習の目標 | 市場環境が変化する中で、マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義と役割を理解した上で、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を養います。 |
| 授業の概要 | マーケティングに関する具体的な事例を取り上げ、顧客満足の実現を目指すマーケティングの在り方について考え、マーケティング活動について主体的・創造的に学習します。       |

| 学年                         | 学期          | 単 元 名 等          | 学 習 内 容  | 評価の観点 |   |   |   |   |
|----------------------------|-------------|------------------|--|-------|---|---|---|---|
|                            |             |                  |  | ①     | ② | ③ | ④ |   |
| 年<br>間<br>学<br>習<br>計<br>画 | 1<br>学<br>期 | 第1章 現代市場とマーケティング | 1 現代市場の特徴 2 マーケティングの概要                                 | ◎     | ○ |   |   |   |
|                            |             | 第2章 市場調査         | 1 市場調査の意味 2 市場調査の手順<br>3 市場調査の方法                       |       |   | ◎ | ○ |   |
|                            |             | 第3章 消費者行動        | 1 消費者行動と購買 2 購買意思決定過程<br>3 製品のライフサイクルと普及               | ○     | ◎ |   |   |   |
|                            |             | 第4章 販売計画         | 1 販売計画と販売予測 2 立案・実施・統制                                 |       |   | ○ | ◎ |   |
|                            | 2<br>学<br>期 | 第5章 製品計画         | 1 製品計画の要素 2 製品ミックスと製品政策                                |       |   | ◎ | ○ |   |
|                            |             | 第6章 仕入計画と商品管理    | 1 仕入計画 2 商品管理  |       |   |   | ○ | ◎ |
|                            |             | 第7章 販売価格         | 1 販売価格の決定 2 価格戦略                                       |       |   | ◎ | ○ |   |
|                            |             | 第8章 販売経路         | 1 販売経路の設定 2 販売経路の強化                                    |       |   | ○ |   | ◎ |
|                            | 3<br>学<br>期 | 第9章 販売促進         | 1 販売促進の重要性 2 広告<br>3 販売員活動 4 ブランド 5 信用販売<br>6 その他の販売促進 |       |   | ○ |   | ◎ |
|                            |             | 演習               | 1 ブレーンストーミング 2 プランニング<br>3 プレゼンテーション                   |       |   |   | ◎ | ○ |

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

| 評価の観点及び評価規準   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| ① 関心・意欲・態度  | ② 思考・判断   | ③ 技能・表現  | ④ 知識・理解   |
| マーケティングについて関心をもち、マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、マーケティング活動を行う実践的な態度を身に付けている。                  | マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 | マーケティングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、マーケティング活動を合理的に計画し、その技能を適切に活用している。 | マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、マーケティングの意義や役割について理解している。 |
| 評価の方法   |   |  |   |
| 定期考査を主たる評価としますが、長期休業（夏・冬）における課題学習、演習、語句確認テスト・商業経済検定試験の成績、授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象とします。特に言語活動に重点を置いて評価します。 |   |  |   |

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

|     |  |     |      |     |   |      |  |
|-----|--|-----|------|-----|---|------|--|
| 教科  | 商業   | 科目  | 原価計算 | 学年  | 2 | 類型   |  |
| 単位数 | 4  | 教科書 | 原価計算 | 出版社 |   | 実教出版 |  |
| 副教材 | 完全段階式標準検定簿記問題集全商1級原価計算(とうほう)、日商簿記2級問題集(大原出版) |     |      |     |   |      |  |

|       |  |
|-------|--|
| 学習の目標 | 1 製造業における原価計算に関心を持ち、その知識と技術を習得させます。<br>2 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身につけます。<br>3 アクティブラーニング手法を取り入れ、主体的に考える力を育成します。   |
| 授業の概要 | 各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を習得させます。また、グループワークやパソコンでの学習を授業に取り入れることで、生徒に主体的に考えさせます。全商協会主催の検定試験だけでなく、日商簿記検定にも挑戦します。 |

| 学期          | 単元名等                     | 学習内容   | 評価の観点 |   |        |            |
|-------------|--------------------------|--|-------|---|--------|------------|
|             |                          |  | ①     | ② | ③      | ④          |
| 1<br>学<br>期 | 第1編 原価計算の基礎              | 1 原価と原価計算<br>2 原価計算のあらまし<br>3 製造業における簿記  | ○     |   |        |            |
|             | 第2編 原価の費目別計算             | 4 材料費の計算と記帳<br>5 労務費の計算と記帳<br>6 経費の計算と記帳<br>(中間考査)                                     | ○     |   |        |            |
|             | 第3編 原価の部門別計算と製品別計算       | 7 個別原価計算<br>8 部門別個別原価計算<br>9 総合原価計算<br>(期末考査)  | ○     | ○ |        | ◎          |
| 2<br>学<br>期 | 第4編 製品の完成・販売と決算          | 9 総合原価計算<br>10 工程別総合原価計算<br>11 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理<br>12 製品の完成と販売<br>13 決算と本社・工場間の取引 | ○     | ○ |        |            |
|             | 第5編 標準原価計算の基礎            | 14 標準原価計算(その1)<br>15 標準原価計算(その2)<br>(中間考査)   | ○     | ○ |        | ◎          |
|             | 第6編 直接原価計算の基礎            | 16 直接原価計算(その1)<br>17 直接原価計算(その2)<br>検定問題練習<br>(期末考査)                                   | ○     | ○ |        | ◎          |
| 画<br>学<br>期 | 全商簿記検定対策<br><br>日商簿記検定対策 | 簿記実務検定試験<br><br>発展問題<br>検定問題練習<br><br>(学年末考査)  |       |   | ○<br>○ | ◎<br><br>◎ |

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

| 評価の観点及び評価規準  |   |                                      |   |
|--|---|--------------------------------------|---|
| ①関心・意欲・態度  | ②思考・判断・表現                                   | ③技能                                  | ④知識・理解  |
| ・原価計算に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。<br>・出席状況<br>・授業態度                                     | ・各種の原価計算の方法や記帳法が理解できる。<br>・定期考査<br>・課題の提出状況 | ・原価計算の基礎的・基本的な技術を身につけ、的確に処理することができる。 | ・原価計算の基本的な仕組みおよび基本構造について理解している。<br>・定期考査<br>・検定模擬問題 |
| 評価の方法  |   |                                      |   |
| 4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価します。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価します。 |   |                                      |   |

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

|     |                    |     |        |     |        |    |     |
|-----|--------------------|-----|--------|-----|--------|----|-----|
| 教科  | 商業                 | 科目  | 財務会計 I | 学年  | 2      | 類型 | 商業科 |
| 単位数 | 3                  | 教科書 | 財務会計 I | 出版社 | 東京法令出版 |    |     |
| 副教材 | 完全段階式 標準検定簿記問題集 会計 |     |        |     |        |    |     |

|       |   |
|-------|---|
| 学習の目標 | (1) 株式会社における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を身につけ、理解を深めます。<br>(2) 株式会社の日常的な取引を合理的・能率的に記帳する方法と会計理論の基本的なしくみについて学習します。<br>(3) 貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を分析し、活用する能力と態度を身に付けます。 |
| 授業の概要 | 企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについて理解を深めます。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」を損益計算書を基本とし、当該財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ります。  |

| 学期      | 単元名等             | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |   |  |
|---------|------------------|--|-------|---|---|---|--|
|         |                  |  | ①     | ② | ③ | ④ |  |
| 1<br>学期 | 第Ⅰ編<br>財務会計の基礎   | 第1章 企業会計の意義と役割<br>第2章 会計法規と会計基準<br>第3章 株式会社の設立・開業と株式の発行<br>第4章 当期純損益の計上と余剰金の配当・処分<br>第5章 社債<br>第6章 株式会社の税務 | ○     |   |   | ◎ |  |
|         | 第Ⅱ編<br>貸借対照表     | 第1章 貸借対照表の概要<br>第2章 資産の意味・分類と評価<br>第3章 流動資産<br>第4章 固定資産  | ○     |   |   | ◎ |  |
| 2<br>学期 | 第Ⅲ編<br>損益計算書     | 第5章 負債の意味・分類<br>第6章 純資産の意味・分類<br>第7章 貸借対照表の作成  |       |   | ○ | ◎ |  |
|         |                  | 第1章 損益計算の意味と損益の区分<br>第2章 収益・費用の認識と測定<br>第3章 損益計算書の作成<br>第4章 その他の財務諸表                                       |       |   | ○ | ◎ |  |
| 3<br>学期 | 第Ⅳ編<br>財務諸表活用の基礎 | 第1章 財務諸表の意義<br>第2章 財務諸表の見方   |       | ○ |   |   |  |
|         | 第Ⅴ編<br>連結財務諸表    | 【全商簿記実務検定試験】<br>第1章 連結財務諸表   |       |   |   | ◎ |  |

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

| 評価の観点及び評価規準  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| ①関心・意欲・態度  | ②思考・判断・表現  | ③技能   | ④知識・理解   |
| 財務諸表の作成に関する知識と技術の習得や理解の促進に興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとしているかどうか。<br><br>・出席状況<br>・授業態度<br>・課題の提出状況 | 財務諸表のはたす役割を理解して自ら思考を深め、現実の諸問題に基本的な知識と技術を活用して判断し、意思決定をおこなおうとしているかどうか。また、それを適切に表現することができるかどうか。<br>・グループ活動<br>・検定模擬問題 | 財務会計の基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、活用することができるかどうか。<br><br>・検定試験（模擬問題） | 財務会計の意義、会計法規および会計基準について理解し、会計に関する法規や基準の変更に対応できる知識を身につけているかどうか。<br><br>・定期考査<br>・検定試験 |
| 評価の方法  |  |   |  |
| 定期考査に加え、提出物（問題集、検定模擬問題等）、検定試験の成績などを総合的に評価します。<br>また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。    |  |   |  |

|     |                                  |     |                               |     |      |   |  |
|-----|----------------------------------|-----|-------------------------------|-----|------|---|--|
| 教科  | 商業                               | 科目  | 情報処理                          | 学年  | 2    | 類 |  |
| 単位数 | 2                                | 教科書 | 最新情報処理 Advanced Computing 新訂版 | 出版社 | 実教出版 |   |  |
| 副教材 | ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級・2級(実教出版)(実教) |     |                               |     |      |   |  |

|       |  |
|-------|--|
| 学習の目標 | 1 ビジネスと情報処理について理解し、情報活用能力を高めます。<br>2 各種ソフトウェアの活用に習熟させ、高度な資格取得を目標にします。<br>3 正しい情報モラルについて理解し、実践できる能力を養います。<br>4 自らが学習の主役となり、主体的に考え能動的に学ぶ力を養います。  |
| 授業の概要 | 情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解していくとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を養います。加えて、グループ活動や課題解決型の手法を授業に取り入れ、身につけた知識を活用しながら新たな問題を発見し、問題を解決する力を養います。2学期以降は演習を多く取り入れ、検定試験に対応できる力を養います。 |

| 学年 | 学期 | 単元名等              | 学習内容                     | 評価の観点 |   |   |   |   |
|----|----|-------------------|--------------------------|-------|---|---|---|---|
|    |    |                   |                          | ①     | ② | ③ | ④ |   |
| 1  | 学  | 3章 ビジネス情報の処理と分析   | 1 統計の基礎 2 統計的推測と技法 ABC分析 | ○     |   |   |   | ○ |
|    |    | 5節 ビジネスと統計        | 回帰分析、その他の分析              |       | ○ |   |   |   |
|    |    | 4章 ビジネス文書の作成      | 1 ビジネス文書の役割 2 ビジネス文書の構成  |       |   |   |   |   |
| 2  | 期  | 1節 ビジネス文書と表現      | 1 図形や画像の役割 2 画像の活用       | ○     | ○ | ○ |   |   |
|    |    | 2節 図形と画像の活用       | 1 ワープロ操作と入力方法            |       |   | ○ |   |   |
|    |    | 3節 基本文書の作成        | 2 ワープロを利用した文書の作成         |       |   | ○ |   |   |
| 3  | 学  | 4節 応用文書の作成        | 1 表計算を含んだ文書の作成           |       | ○ | ○ |   |   |
|    |    |                   | 2 グラフを含んだ文書の作成           |       | ○ | ○ |   |   |
|    |    |                   | 3 表現力に富んだ報告書の作成          |       | ○ | ○ |   | ◎ |
| 4  | 期  | ワープロ総合演習          | 4 その他の機能                 |       |   | ○ |   |   |
|    |    |                   | 検定対策                     | 模擬問題  | ○ | ○ |   | ◎ |
|    |    |                   |                          |       |   |   | ○ |   |
| 5  | 学  | 5章 プレゼンテーション      | 1 プレゼンテーションの意義と必要性       | ○     |   |   |   |   |
|    |    |                   | 2 プレゼンテーションの基礎           |       |   |   | ○ |   |
| 6  | 期  | 2節 ビジネスとプレゼンテーション | 1 プレゼンテーションソフトウェアの利用     |       | ○ | ○ |   |   |
|    |    |                   | 2 プレゼンテーションの演習           |       |   |   |   |   |

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

| 評価の観点及び評価規準   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| ①関心・意欲・態度   | ②思考・判断・表現   | ③技能   | ④知識・理解  |
| 情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとする実践的な態度を身につけている。<br><br>・授業への取り組み<br>・課題等の提出状況   | 情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、様々な情報や意見をグラフや図表などから適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。<br><br>・グループ活動<br>・プレゼンテーションの演習 | 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。<br>・課題プリント<br>・プレゼンテーションの演習 | 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、学習したことを生活の中でいかせることを理解している。<br><br>・定期考査<br>・小テスト<br>・検定試験 |
| 評価の方法   |   |   |   |
| 定期考査に加え、提出物(課題等)、小テスト(検定模擬問題等)、検定試験の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題解決学習での取組の姿勢・内容、発表の態度等も評価の対象になります。 |   |   |   |

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

|     |    |     |                |     |   |   |     |
|-----|----|-----|----------------|-----|---|---|-----|
| 教科  | 商業 | 科目  | 課題研究（インターンシップ） | 学年  | 2 | 類 | 商業科 |
| 単位数 | 1  | 教科書 |                | 出版社 |   |   |     |
| 副教材 |    |     |                |     |   |   |     |

|       |   |
|-------|---|
| 学習の目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップを通して、自分の能力、適性等の理解を深める</li> <li>・インターンシップを通して、多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める</li> <li>・インターンシップを通して、職業や職業生活についての理解を深め、将来の進路について現実的に考える</li> </ul> |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を通じて、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な能力等を育てる教育を行います。</li> <li>2 地元企業でインターンシップを実施し、実践的・体験的な学習を行います。</li> <li>3 プレゼンテーションソフトウェアを用いた発表を行います。</li> </ol>           |

|                  | 学期               | 単 元 名 等   | 学 習 内 容   | 評価の観点 |   |   |   |   |  |
|------------------|------------------|---|---|-------|---|---|---|---|--|
|                  |                  |   |   | ①     | ② | ③ | ④ |   |  |
| 学<br>習<br>計<br>画 | 1<br>年<br>学<br>期 | 他教科に振替（財務会計Ⅰ）                                       |   |       |   |   |   |   |  |
|                  | 2<br>学<br>期      | 他教科に振替（財務会計Ⅰ）<br>1. 事前指導<br>2. 資料作成<br>3. インターシップ準備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの目的・意義</li> <li>・自己紹介カード 実習ノート作成</li> <li>・企業との交渉</li> </ul>                | ○     | ○ |   | ○ |   |  |
|                  | 3<br>学<br>期      | 4. インターシップ実施<br>5 報告会<br>・発表<br>・評価                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3日間のインターンシップ</li> <li>・プレゼンテーション発表</li> <li>・感想文・礼状・報告書の内容を踏まえ、総合的に評価する。</li> </ul> | ◎     | ○ |   | ○ | ◎ |  |

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

| 評価の観点及び評価規準   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| ①関心・意欲・態度   | ②思考・判断・表現   | ③技能  | ④知識・理解  |
| 企業概要調べに関しては、インターンシップ実習前に提出されたレポートと、実習後に提出された実習ノートを基に、いかに積極的に調査をしているかについて評価した。<br>・出席状況<br>・授業態度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な考察を深めることができる。</li> <li>・自らの考えを他者に的確に伝えることができる。</li> <li>・グループ活動</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。</li> <li>・プレゼンテーション演習</li> <li>・実習態度</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の現状や課題について理解を深め、地域創生を担う使命感を持つことができる。</li> <li>・提出物（課題、レポート等）</li> </ul> |
| 評価の方法   |   |  |   |
| 提出物（自己紹介カード・礼状・実習ノート等）、プレゼンテーション、などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題解決学習での取組の姿勢・内容、発表の態度等も評価の対象になります。    |   |  |   |